

平成30年度 第1回市立湖西病院改革プラン評価検討委員会 議事録

日時：平成30年5月31日 午後1時30分～午後3時

場所：市立湖西病院 講堂

委員：出席委員9名

田中伸弘（湖西市副市長）、中村博行（湖西市議会議員）、榛名正人（湖西市医学会代表）、村田寛（湖西市自治会連合会代表）、杉浦良樹（湖西市病院事業管理者）、寺田肇（市立湖西病院院長）、山本千秋（市立湖西病院看護部長）、小林利彦（浜松医科大学福祉支援センター特任教授）、和田光貴（全国自治体病院協議会）

事務局：松本和彦（事務長）、松本圭史（管理課長）、菅沼由孝（医事課長）、菅沼稔（健診運営室長）、和田旨弘（医事課課長代理）、柴田康裕（管理課経営企画係長）

【湖西市長挨拶】

市長になって1年半、湖西病院のことや地域医療のこと、市民の皆様から声を聴く機会が多くあります。全国自治体病院協議会の経営診断をいただきましたが、これから改革プランを見直していくにあたり、湖西市民が安心して医療を受けられる環境が大切だと思っています。湖西市としても限られた財源の中で運営していく必要があるため、バランスをしっかりとって、湖西病院としての役割はどこまでなのか、クリニック、近隣に大きな病院が複数ある中で、地域の中でどのような役割分担が求められるのか、前向き、建設的にご議論いただきたいと思います。

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 湖西市病院事業管理者挨拶
4. 委員紹介

5. 議 題

- (1) 湖西市地域医療状況分析・市立湖西病院経営診断報告書について
「全国自治体病院協議会」から報告書（概要版）で報告説明。

- (2) 市立湖西病院改革プランの内容検討について

○湖西市病院事業管理者杉浦より

資料「市立湖西病院改革プランの実践に向けて」の説明

○委 員

人口約 6 万人の湖西市に、湖西病院は非常に重要な役割を担っているため、決して破綻させてはいけないと思います。

職員が少なく、196 床ある病床が 103 床しか稼働できないということですが、職員が増えれば稼働できるのか、また増やすことができるのかというと基本的には厳しいと思います。その 103 床をどう使うかという時に、市民がどのように湖西病院を使用しているかということが重要であり、よほど急性期なものであれば聖隷浜松病院や浜松医療センター、豊橋市民病院に行っているのではないかと思います。

さらに湖西病院に外来が無いと困ると思いますが、看板がいくつもあるような外来が本当に必要なのでしょうか。例えば循環器内科の寺田先生が糖尿病外来をやっていたりします。看板には糖尿病外来と書かれていますが、みなさんのイメージする本当の糖尿病専門外来とはまた違うと思います。そのため内科でいいと思います。もちろん科を整理したからと言ってコスト削減につながるとは思いますが、まずそのような意識ですね。

湖西病院に求められているのは、外来は当然のこととして入院で、高度急性期ではなく若干の急性期を受け入れるのは必要だと思います。さらに骨折や脳卒中のリハビリ、100 日以上のリハビリを求めているのか、近くにそのような施設があるのか、慢性期としてこの病院を作ってほしいのか、また近くにそのような場所があるから必要ないのか。地域包括ケア病棟とは 60 日入院できる病床です。一般急性期と地域包括ケア病棟を入れて、長期の回復のための病棟は別の所でやってもらうなど、役割分担ができるといいと思います。

あとは収支に対して妥当なアクションを起こす必要があると考えます。一般市民にこの病院が大事だと思っていただいて、一緒に守っていただくような取り組みをして、サポートしていただくということが大事だと思います。

○委 員

地域包括ケア病床をできるかできないかではなく、今のニーズとして少ないため、考える余地はあります。やはり医師や看護師等の人材確保がどこまでできるか、経営改革はまずそこから考えるべきなのではないかと思いますが、方向性は間違っていないと思います。

○委 員

方向性は間違っていないがやるが多すぎるため、何をいつまでにやるのか具体化していく必要があると思います。あと救急でかかる人の危機管理体制ということで、早く処置をして手に負えないのであれば他の病院に移すなど判断を早くし、この病院が必要とされるようにすることが大切だと思います。

○委 員

経営診断によると診療科 22 科あるが、循環器内科・呼吸器内科・消化器内科等を内科にまとめた場合人数はどれくらいになるか、市民のニーズとして市内開業医が湖西病院にどれくらい紹介しているかがわかれば外来の状況はわかると思う。非常勤医師を減らす雰囲気であるが、収益面だけではなくて市内開業医のことも考え、市内にない診療科・需要のある科は費用がかかってもあったほうが医師会も市民も助かります。

入院ではどの診療科が多いのか。入院は循環器内科医師が他の診療も診ていると思います。病名と診療科については記載されていない。

あと、未収金が多いがこれはなぜか

○事務局

未収金は、保険者が負担する診療分の 2 ヶ月分です。2 ヶ月遅れて入金されます。保険診療の 7 割分国保連合会や社会保険診療報酬支払基金から入金される費用がそちらに該当します。

○委 員

湖西市の場合、外来のために他市に行くことはあっても他市から来ることは無いと思います。

そこで具体的に何が必要かと言いますと、予約者が外来に来た場合にどれくらい時間がかかるかというのが、外来患者の増減の要因だと考えます。私が通院している浜松医療センターは、予約すると 30 分以内には診察してもらえます。湖西病院の場合だと、緊急の患者が入ったりすると、1 時間以上かかる場合があるということを知りました。その時間をなるべく短くすることが必要になると考えます。診察までにかかる時間をなるべく短くして、ふれあいタクシーなどと連携すればリピーターも増えると思います。

○委 員（湖西市病院事業管理者）

ありがとうございました。今後に活用していきます。いろんなことを考えていかなければなりませんが、1 番の指命は収支の改善だと思います。

ただ、ここで質の担保、今あることを改善しつつ、悪くさせないように改善しなければいけないという相反する部分もあるので、そこは参考にしたいと思います。

5 名の委員の方から意見をまとめてみますと

- ・サポーターの活用・収支、人員の確保・具体的に誰がいつやるのか
- ・病院と地域連携の判断
- ・医会、市民のニーズ、湖西病院にない診療科は開業医が対応することが必要
- ・病院、開業医の連携
- ・未収金、未払金

○委 員（市立湖西病院院長）

危機管理体制ということで、救急から自院で見ると、二次搬送するのかの判断が必要となっています。浜松市には医療センター、二次救急があり、脳外科の CT 転送など特殊連携が取れています。まだまだ改善の余地はあるため、連携していくことが必要だと思います。

予約しても長い時間待たせられるという苦情ですが、もちろん予約時間に正確にできればいいとは思いますが、必ずしもその通りにはできないというのが現状です。患者にとって 1 番心配なのは、自分が忘れられたのではないか、抜かされたのではないか、見てくれるのかという感情が要因となります。それをいかに解くかということです。診療が遅れていれば「診療が遅れています」と伝え、対応したいと考えます。

浜松医科大学の山岡先生による「地域医療を守る会」に議員傍聴に参加していますが、しっかりとしたサポート体制はできていません。

○委 員

予約時間についてですが、病気以外の質問に答えると時間がかかってしまいます。私の通っている病院では、病気以外の質問は受け付けてもらえません。そうすると診療時間も短くて済むと思います。病気を心配して、年配の方は時間がかかるのではないのでしょうか。

○委 員（市立湖西病院院長）

たしかにそういうこともあるかとは思いますが、完全な専門外来はできますが、ニーズの問題です。地域の病院である程度の訴えに対応していくのか、専門的なものに限るのか。それはかかられる患者にもよりますし、病気の種類によっても変わると思います。

○委 員

患者のニーズでいくか、回転数でいくか、管理者はどのように考えていますか。

○委 員（湖西市病院事業管理者）

納得のいく方法でと考えています。病気を診て、他の相談は他の相談窓口へ、そのような対応をしていると冷たいと感じられることもあるので、難しい問題だと思います。ただし待ち時間対策は手を打っていかないといけないですし、午後の外来診察などは限度を見て考えていかなければならないと思います。

○委 員

湖西病院は判断に時間がかかる。このような患者はどうするか、自院で処置するのか他院に送るのか、その判断は早くしないといけないと思います。その判断が遅れると、患者にしたら治ると思って行ったのに治らなかったというようになってしまう。このような自分たちの判断は次の判断につながっていくため、判断の早さは必要だと感じます。

○委 員（市立湖西病院院長）

救急で来た患者も、時間によっては待っている場合があります。そのため、余分な判断はしないなど、正しい判断をしなければいけません。全く何もないところから、他の病院に送るのか処置をするのか、正確性が必要になります。

今後、慢性期と外来だけを行うとなると、診療能力そちらの不満が感じられるということになるかと思います。そのため、市民の参加が必要で、ここまで医療サービスを削るとできなくなる、また、夜間は見れないという状況にならないように今後のことを考えたいと思います。

○委 員（看護部長）

看護師不足ですが、できるところで努力し、少ない中でどう対応すればいいのかということを少しずつ考えていきたいなと思います。地域連携や市民に参加してもらい湖西病院のことを考えてもらうという話が出ているので、湖西病院について市民がどう思っているか聞いて教えてもらったり、これを機会にそういう場を設けたりできたらいいなと思いました。市と病院との連携という指摘を受けてからなかなかそこに踏み出せていないので、湖西病院のことを考えるには大きくしていけるような、機会を作っていただけるといいなと思います。病院から病院に助けてとは言いきいにくいですが、この場の委員をいいきっかけにして進めていければいいと思います。

○委 員

自治体病院は民間病院と違い、住民が望んでできた経緯があるはずなので、みなさんと盛り上げていければいいと思います。実際病院を守る会ができて、破綻しそうな病院が這い上がってきた例もあるため、住民がどう思うかによって変わってくるため、そのような意識を持つべきだと思います。

○委 員

決算を見ると、費用の 50%以上は人件費がかかっています。これは見直しができないのかと思います。給与は年々上がるので、その分合理化していくことは必要ではないかと思います。

○委 員（湖西市病院事業管理者）

基本給を変えることはできないため、手当の見直しをやっています。手当の部分は改善の余地はありますが、モチベーション低下の恐れもあります。

(3) H30 年度開催予定について

事務局から「平成 30 年度 市立湖西病院 改革プラン評価検討委員会 開催予定について」を説明

○委 員

これから年 3 回の調整会議を行うわけですが、休床のところに関しては説明責任が求められます。どうして空いているのですか、埋まる可能性があるのですかと、そういう討論が起こると思います。

○事務局

病院がどのくらいの改善を図っていくのか、病院の予算の中でどうするのか、それを数字で示していかないといけないと思います。次回は今日いただいた意見を踏まえて意見交換をして11月には予算的にも確認をしていくという形になると思います。

見直すべき費用を判断し、減らしていけるものは減らしていきたいと思います。

6. その他

○委 員

給与費に関する数値を指摘したものが訂正されましたが、以前のものも新しく解釈した数字を使うべきだと思います。そこについて説明していただけますか。

○事務局

新しい数字で提示いたします。

7. 閉会